

関東学院大学土木工学科

○学生会員 藤岡篤士

関東学院大学土木工学科

正会員 鈴木伸治

(株)プランニングネットワーク

横山公一

1. 研究の目的及び背景

本研究では横須賀市を例に取り上げ、地名・校歌を通して、横須賀市の景観構造がどのように認識されているかについて分析を行う。^(注1) 地名は地域独自の地味、地形、歴史等の風土といった景観要素が含まれていることから、これらの景観要素を抽出してその種類、頻度、分布に関して分析を行うことで、地形の認識をもとにした景観の構造について明らかにする。また地名の分析と同時に校歌に謳われる景観要素の分布により景観構造の特徴を位置付け、横須賀市の地域における集団表象的な景観イメージを把握する。

2. 横須賀市の概要

横須賀市は面積100.62km²、人口約43万200人であり、三浦半島の中部、北部を占めており、ペリーの来航以来、軍港都市として発展をとげ戦後は港湾都市として発展してきた。また地形的な特徴として東京湾、金田湾、相模湾の三方を海によって囲まれており、横浜市の南部から連続する丘陵地、小原台と武山南方に分布する台地、およびそれらの地形を刻む谷沿いの沖積低地に三分され、横須賀市の大部分を構成する丘陵地は大楠山(241m)を最高点としおよそ100mから150mの高度を持つ。また丘陵地を刻む谷沿い並びに、海岸沿いには海拔-10m程度の低平な土地がみられ、主要市街地や大部分の集落はここに立地している。

3. 地名に見られる景観構造の把握

横須賀市の町名地名整理^(注1)により登記簿から消えた多くの小字には地域の地形を表す語彙が多く使われている。本研究では横須賀市の小字に着目し景観構造の把握を試みた。

市に存在していた910箇の小字のうち語尾に「谷」とつく地名は910箇中185と全体の20%を占めている(表1参照)。また「浜」、「浦」、「崎」といった海岸部の入組みをイメージさせるもの、「上」、「下」、「台」といった、地形の上下関係を表現しているものが多い。図1に示すように、「谷」については横須賀市の中央部から西部にかけて比較的多く分布し、「下」については平作川沿いに多く分布している。「谷」は谷戸地形が多い横須賀市の地形的特徴を示しており、「浦」、「崎」などの海岸地形と合わせて、地形の平面的入組みに富むという横須賀市の景観構造を端的に示していると考えられる。

表1 語尾に見みられる語彙の頻度分布

	谷	浜	崎	入	口	浦	上	下	台
小字数	185	18	37	17	15	19	18	30	23
	20%	2%	4%	2%	2%	2%	2%	3%	3%

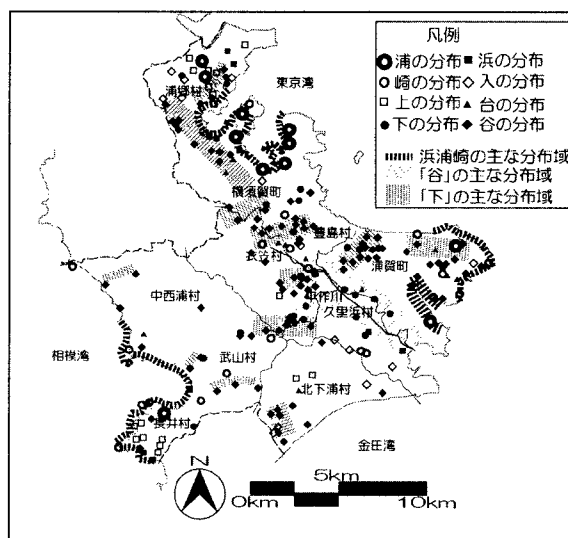


図1 地形に見られる横須賀の景観イメージ

キーワード 景観構造、校歌、地名

連絡先 横浜市金沢区六浦町 4834 関東学院大学土木工学

4. 校歌に謳われる景観構造の把握

校歌分析の対象は市立小学校 48 校、市立中学校 25 校の計 73 校である。表 2 に示すように最も出現頻度が高いものは「海」が 86%、「山」「丘」が 57%、56%と続く。最も出現頻度が高い「海」においては、海岸までの水平距離が 1500m未満の場合では 54 校中、50 校と 92.6%、1500m以上では 19 校中 8 校 36.8%といった出現率である。海岸部からおよそ 1500mが海に対する景観イメージの分布圏と考えられる。また「丘」と「海」の両方の要素が謳われている校数が多いことから、海岸と丘陵の位置関係が近く、集団表象として重要であることを伺わせる結果となった。

特定の固有名詞(表 3 参照)では市内に存在する、鷹取山 6 校、平作川 5 校、大楠山 4 校に対して、富士山が 8 校と最も頻度が高かった。これは富士山が市内のおよそ 1/3 の地域から眺望可能であることに起因しており、横須賀市の景観イメージ上重要であることを示している(図 2 参照)

5. まとめ

本論では、横須賀市の景観構造と、そのイメージについて、地名と学校に謳い込まれた景観要素をもとに分析を行った。

その結果、図 3 に示すようにランドマーク、丘陵地、海岸部、川沿い平地の 4 つの代表的な景観イメージを導くことができた。この結果は、現在あるいは将来の景観を考える際に、その場所が持っている本来的な景観の構造に根ざした景観施策を考える有用な手がかりのひとつとなるものと考えられる。謝辞

本研究を進めるにあたり、(株)プランニングネットワーク、および横須賀市の皆様に多くの御指導・御協力を頂きました。ここに感謝の意を述べます。

(注 1) 校歌を使った景観分析の研究は北原らの津、松坂、四日市を対象とした研究がある。また地域環境を把握する手法として、笹谷らの小地名を用いた環境情報の研究が行われている。

(注 2) 横須賀市では町名地名地番整理直前の、昭和 24 年(1949)3 月 31 日現在、(現在の逗子分は覗く)910 箇(内・字番地は 130)の小字が存在した。表 1 については文献「横須賀市の町名」に出現したものである。

参考文献：①北原理雄(1988)校歌に謳われた松坂の景観構造-松坂の都市景観に関する研究・その 1-日本建築学会大会学術講演梗概集・F 分冊 31-32、②北原理雄(1990)校歌に謳われた都市の景観構造に関する研究・都市計画論文集 p673~678、③笹谷康之、中岡浩一、小柳武和、山形耕一(1989)小地名を用いた環境情報の研究・都市計画論文集 p463~468、④横須賀市(1989)横須賀の町名

表 2 校歌に謳われた固有名詞の頻度分布

地域分類	景観要素	山	丘	海	島	船	港	歴史	川	その他	木・花
横浜・田浦・逸見・本町・大津地区	29校	17	17	28	3	7	5	1	1	1	15
		59%	59%	97%	10%	24%	17%	3%	3%	3%	52%
衣笠地区	12校	5	6	3	0	0	0	4	4	3	4
		42%	50%	25%	0%	0%	0%	33%	33%	25%	33%
浦賀・久里浜・下北浦地区	24校	11	13	23	1	4	5	2	2	6	7
		46%	54%	96%	4%	17%	21%	8%	8%	25%	29%
西地区	8校	8	4	8	1	1	0	1	0	1	4
		100%	50%	100%	13%	13%	0%	13%	0%	13%	50%
計	73校	41	40	62	5	12	10	8	7	11	30
		57%	56%	86%	7%	17%	14%	11%	10%	15%	42%

表 3 校歌に謳われた固有名詞の頻度分布

固有名詞	個数	固有名詞	個数	固有名詞	個数	固有名詞	個数
富士山	8	浦賀港	2	長浦湾	1	うちらは台	1
鷹取山	6	武山	2	荒崎沖	1	桜台	1
平作川	5	夏島	1	荒崎浦	1	松原が丘	1
大楠山	4	護国山	1	野島	1	大津の丘	1
東京湾	3	矢部山	1	猿島	1	安針塚	1
小原台	3	津久井の浜	1	天神島	1	黒船	1
三浦富士	2	多田羅浜	1	山王台	1	鉄塔	1
相模の海	2	逸見の海	1	清水が丘	1	高圧線	1
太平洋	2	小田和の海	1	津久井の台地	1	白ひげ神社	1
観音崎	2	相模灘	1	津久井の丘	1		

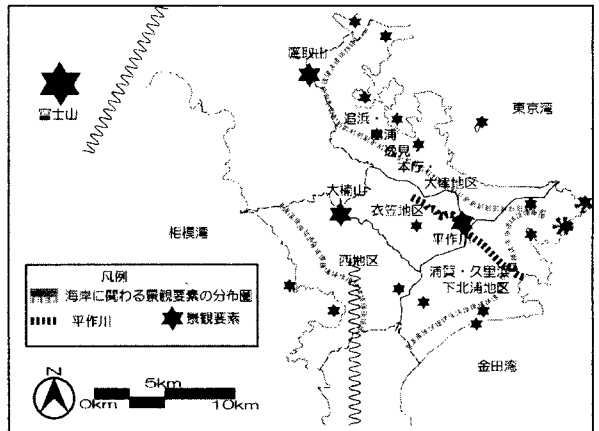


図 2 校歌に謳われた景観要素の地理的分布

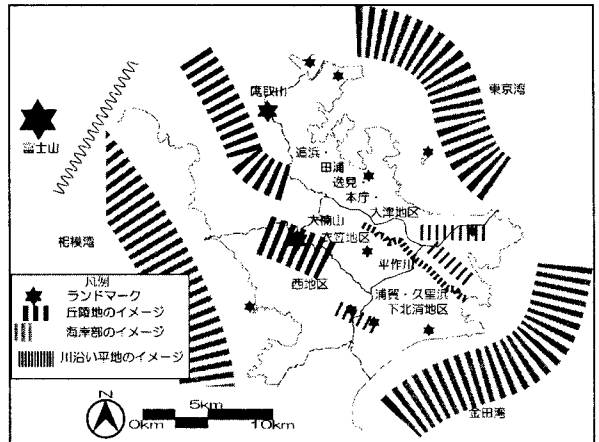


図 3 校歌、地名に見られる横須賀市の景観イメージ